Library

第２８号
編集・発行
信州大学付属図書館
繊維学部分館
平成１０年7月２１日

CONTENTS

カルガリー大学とその図書館	応用生物科学科	金勝　廉介	(2)
アメリカ大陸、鉄道の旅	機能機械学科	渡辺　義見	(6)
「上田周辺観光ガイド」④	精密素材工学科	村上　泰	(13)
分館通信　告知板			(14)
分館日誌			(15)
編集後記			(15)

Library（電子版）はｲﾝﾀｰﾈｯﾄでも提供しています。
URLは http://shinlif1.shinshu-u.ac.jp/online.html です。

カルガリー大学とその図書館

応用生物科学科　金勝 廉介

８月。人影少ない夏休みの大学キャンパスでは９月からの新入生を迎える準備が始まっていました。キャンパスで一番高い２０数階建ての中央図書館が見おろす位置に Mc Ewan Student Centre という名の学生会館があります。その学生会館地下の書籍部では半分以上のスペースと書棚を占めて教科書の販売を始めていました。並べられている教科書はどれも、たいへん分厚い本で、こんなのを何冊も持たされて学生たちは経済的にも体力的にもさぞかし大変だろうなど考えながらあれこれ書物を物色して廻った事を思いだします。カナダでは、Debit Card といって、銀行のキャッシュカードがそのまま商店での支払いにも使われるシステムが浸透しています。この書籍部でも同様で、レジの端末機で暗証番号を ピ♪ポ♪パ♪ポ♪と入力するだけで簡単に買い物ができます。ここカルガリーは治安の点でも全く心配なく、普段の生活はとても便利でした。

それにしてもこの分厚い本は、それを持つ学生たちの体格が大きいからという理由以外にも、何か不思議と彼らに良く似合っているのです。バスを待つキャンパスの芝生の上で、ドーナツの店の片隅の小さなテーブルでその分厚い本を一生懸命読んでレポートをまとめている姿がごくごく日常的に見られました。この光景は薄ぺったい本ではさまにならないのかも知れません。

学生会館や中央図書館のあるカルガリー大学メインキャンパスから2km ほど南の離地が大学病院のある Foot-hills Complex で、そこの Foot-hills Health Sciences Centre で私は昨年７月から１０か月間、分子生物学の勉強をする機会に恵まれました。会議その他諸々の用事から開放されて毎日時間の大半を実験室での生活ににつぎ込むことのできる愉快さは若手教官の方々が感じると思われる以上に格別のものがありました。その Health Sciences Centre の（ちょうど感性工学科の建物を平面に縦横 3 列ずつ並べた位の）巨大な建物の１階中央には多目的のホールがあり、そのホールの吹き抜けをぐるりと取り囲むように２階がそっくり図書室になっていました。当然のことながら私たちはここのご厄介になるわけです。

メインキャンパス正門入ってすぐ、大学のロゴマークをアレンジした花壇

奥の建物は人文科学で、中央図書館はその後ろに一部見えている建物

この図書室は土・日でも朝7時から夜12時まで、有人で開いているのは驚きでした。詳しくは聞きませんでしたが、このように膨大な人手を要するはずの施設の運営の多くが、ボランティアの人たちによって支えられているのだと思います。この国ではボランティアという形で人の役・世間の役に立つことが、市民個人個人の社会に向かう姿勢としてたいへん高く評価されているのです。

考えてみればこれはきわめて微妙な精神的バランスの上で成り立っている社会構造で、人々が少しでも損得勘定に長けてくればたちまちにして崩壊してしまいかねないものだと思われますが、少なくとも現在はとても円滑でかつ力強く回転しているように思われました。一つの例ですが、たとえば高等学校などでクラス全体の進度について行けないような学習困難な生徒がいたり、逆にとても意欲的でもっと高いレベルの学習を望む生徒があったりした時には、学校はそのどちらに対してもすぐ、半ばマンツーマンの特別クラスを設けてあげるのです。そして、そこにふさわしい先生をボランティアで呼んで授業を担当してもらうことなどが普通に行われているのです。

Health Sciences Centreの図書室（２階：閲覧室が見える）
１階は多目的ホールで、写真にはその入口が見える
３階は研究室群

Health Sciences Centre は医学・生物学系の大学院大学を持っていますが、定期購読雑誌のタイトルはたいへん良く揃っていて、探したい文献は大抵苦労なく手にすることができました。カバーすべき分野が限定されている分、密度高くタイトルを収集できるのでしょう。また閲覧室にはネットワーク検索用コンピュータが10台以上も置かれていて、図書や報文の検索に自由に活用できます。ただ残念なのはそれが書籍や論文検索のシステムに直接入り込むわけでなく、メニューに従って操作するとまずカルガリー大学のホームページの表紙に入ってしまうことでした。これでは研究室から使うのと比べて（コンピュータが最新のモデルのため、動作がとても速いという点を除けば）特にご利益があると言うわけではありませんでした。

大学では学生・職員を問わず、全てのメンバーに、磁気カードの身分証明書が発行されます。デジタルカメラで撮ったポートレートがついたカードで、その全体の色から ″Gold Card″ と通称で呼ばれています。図書を借り出す時にはもちろんこのカードの出番になるわけです。面白いのは、希望すれば先に紹介した Debit Card の機能をこの Gold Card に持たせることができます。これで図書館のコピー機が利用できる仕組みになっているのでした。

閲覧室の片隅には図書室で不要になった書籍を安く払い下げるための展示コーナーがあったのは面白いと思いました。私も何か掘り出し物を探してやろうと何回か足を運んだのですが、やはり目ぼしいものはなかなか残っていてはくれません。このように蔵書類は常に点検・更新されているようにも見受けられましたが、意外なことに単行書の棚にはそれほど新しい本は見られず、雑誌類と違って充分には手が回っていないなという感じがしました。そんな中で私が日頃お世話になった単行本がリストに挙げた2冊です。

まず、"Human Molecular Genetics" *1。DNA の構造と働きというごく基礎的な章からスタートして、ヒトの病気の分子診断や遺伝子治療などの最も新しい分野までが取り上げられています。本文の理解を助ける図解はたいへん要点を得た優れたもので、上級者用の内容にもかかわらず全体として分かりやすく書かれた良いテキストと言えます。セミナーで自分の知らない概念や解析手法の話題が出て来たりした時にはその後すぐに図書館に走ってこの本におうかがいをたてるのでした。そこには最新の知見だけでなくそれをもたらした実験手法も丁寧に解説されていました。

次に "Antibodies" *2。実験試薬としての抗体作製・そのための動物の取扱い法から抗体を使っての各種実験まで、さまざまな手法の手順を網羅した、要するにそこいらにあるいわゆる「マニュアル本」の一つです。実はこんなプロトコル集のたぐいなどは、読んだ人にそれほど多くの精神的・知的な豊かさをもたらしてくれる訳でもないので、実を言うとこんなものを紹介するのは少し気がひけるのです。それでも、こと免疫学の分野に関しては今、こんなプロトコル集が必要なこともまた事実です。つまり抗体を使った分析手法は今日のライフ・サイエンスの世界の中でも最も華々しく盛んに行われているものでありながら、実はその歴史には大層古いものがあります。そのためか、そこで行われている実験手法には人それぞれ独自のものがあって、まちまちな条件で行われているのが実情なのです。このような状況の中で何か一つ最大公約数的な標準的実験手法を提案することはお互いの実験結果を照合する上でも有用かも知れません。この本の中に書かれたことがらが必ずしもベストのものかどうかの論議は別としてもです。

*　　*　　*

中央図書館の方はとうとう一度も覗かずじまいのままで私達が帰国の準備を始めた5月上旬は大学では学期末試験が終わって長い夏休みに入り始めた頃になります。Mc Ewan Student Centre の書籍部入り口の近くに臨時のカウンターが設けられて、その前に学生たちがたくさんの教科書を抱えて並んでいました。『使い終わった教科書を後輩に安くゆずってあげましょう』。これは使い済みの教科書の下取りカウンターだったのです。この「教科書のリサイクル」という、自らのもうけを圧迫するはずの事業ですが、それを書籍部自身が行っていました。こうして冒頭で心配した学生さん達の経済的負担の方は多少なりとも緩和されることになったのかも知れま

せん。

＊　＊　＊

*1 Strachan, T. and A. P. Read (1996): ″Human Molecular Genetics″ John Wiley & Sons, N.Y.

*2 Harlow, E. and D. Lane (1988): ″Antibodies -- A Laboratory Manual″ Cold Spring Harbor Laboratory

キャンパスの芝生でレポートの検討をしている大学生たち

アメリカ大陸、鉄道の旅

機能機械学科　渡辺義見

昨年６月より本年５月末まで、文部省在外研究員としてアメリカ・カリフォルニア州に滞在する機会を得ました。平日はまじめに研究をし、そのかわりに、週末には思いっきり遊ぶという日々でした。特に、旅は日本では出来ない体験ですので、ちょくちょく出かけました。

『地球の歩き方』では、"テーマを持った旅を"と勧めています。我が家のアメリカでの旅のテーマは鉄道でした。車社会のアメリカが、実は世界最長の鉄道王国だといっても、あまりぴんとこないかも知れません。しかし、アメリカを訪れた人なら、砂漠を一直線に貫く長い長い鉄路を一度は目にしたことがあるでしょう。

鉄道黄金時代、大陸横断鉄道は世界で最も豪華な陸上交通機関でした。時代が変わって、各都市間を飛行機が無数に飛び交う現在でも、車内の設備と言い、旅行にかかる時間や費用と言い、アメリカで一番優雅で贅沢な旅行は鉄道による旅です。アメリカにおける鉄道の旅と言えばアムトラックでの旅と言うことになります。ここで、アムトラックとはアメリカ鉄道旅客輸送公社のトレードネームで、長距離旅客輸送を一手に引き受けている会社です。しかし、アムトラックは東部地区の一部の路線を除き、独自の路線を持ちません。貨物用の私鉄の線路にアムトラックの車両を走らせているのです。

ここで少し、アムトラックの車両編成に触れてみます。通常、２～３両のディーゼル機関車が牽引しています。最近では上の写真の 103 型新型機関車がほとんどですが、時々、一昔前の機関車が中に含まれることもあります。ただし、残念ながら、魔女の宅急便に出てくるような丸形のディーゼル機関車は一線を退いてしまっており、一部の保存鉄道で活躍するのみです。 西地区の長距

離を走る列車には寝台車、コーチ車と呼ばれる座席車の他に食堂車とラウンジカー（展望車）が連結されています。そのいずれもが2階建てなので、列車に乗るときその大きさに驚かされるでしょう。皆さん、東北・上越新幹線の MAX 型車両を初めて見たとき、とてつもなく大きいと思いませんでしたか。アムトラックの車両の大きさはそれに匹敵します。また、見ての通り、アメリカのホームは限りなく低く、ほぼレールの高さです。ホームから見上げるアムトラックの車両は、それをレールの位置から見上げた様なものです。いかに迫力があるか、想像できるでしょう。

さて、私の所属していましたローレンスバークレー国立研究所は年末から年始に渡って2週間弱の間、閉鎖してしまいます。もちろん、特別な届け出を出せば研究所内に立ち入ることが出来るのですが、渡りに船とばかり、我々一家は広いアメリカの 2/3 の部分をアムトラックで旅行したのです。旅行中、思い出に残った出来事を思いつくままに記した旅行日誌が以下です。

1997

12/23　Coast Starlight (Amtrak)泊

ちょっと早めに研究所から帰宅。重い荷物を引きずり、バスでオークランド駅へ。街はクリスマス一色。オークランド駅に着くと、列車の出発は2時間遅れと表示。"アムトラックは遅れる"という格言そのまま。その間に夕食をとる。丁度、息子の5歳の誕生日だったので（実は天皇と一緒!!）、店員さんがハッピーハッピーバースデーを歌ってくれる。アイスクリームのプレゼント付き。今日の列車では、今回の旅行で唯一、コーチ車にて夜を過ごす。座席と言えども、そこには足載せはおろか脚乗せが付いており、日本のグリーン車より数段上。とても快適であった。

Coast Starlight

Emeryville, California　Depart; 9:20 pm PT
Portland, Oregon　Arrive; 3:20 pm PT, Next day
Travel Time; 18 hours

ロサンゼルスからシアトルまで、太平洋岸の美しい風景の中を南北に走る人気のルート。

12/24 Portland,　Day Inn City Center 泊

1階にある子供室で、子供向けの手品を見る。フェイスペインティング、風船細工も有り。息子は機関車を書いてもらう。オークランドでの遅れは取り戻せないまま、2時間遅れでポートランド着。宿泊するホテルのレストランはイブのため休業。夕食は他のホテルのレストランへ。

12/25　Empire Builder (Amtrak)泊

ファーストフードもクリスマス休み！！朝食はホテルのラウンジで。ハープの生演奏が有り、クリスマスの雰囲気に浸る。博物館、美術館も軒並み休みの為、ライトレールにて郊外見物。

夕方、ユニオンステーションへ行き、列車を待つ。今回の列車ではデラックス寝台を利用する。バスルーム付きの個室で、鉄道黄金時代を彷彿させる。なお、寝台利用者はファーストクラスの客なので色々な特典有り。車内、食堂車での食事は全て無料。また、駅ではファーストクラス専用の待合室が利用できる。コーヒー、ジュース飲み放題。うれし～い。

列車はポートランド発とシアトル発の列車を途中でつなげてシカゴへと向かう。シアトル発が本編成、ポートランド発が属編成のため、食堂車はシアトル発につながっている。無料の夕食が食べられないのかと心配をしていると、アテンダントがお弁当の注文を取りに来た。もちろんただ。最初、子供の分は注文しなかったが、意外に美味しいので、後から子供の分も再注文する。嫌な顔をせずに部屋まで運んでくれた。うれし～い。

Empire Builder

Portland, Oregon　Depart; 4:45 pm PT
Chicago, Illinois　Arrive; 4:10 pm CT, 2 days later
Travel Time; 1 day 21 hr 25 min

ダイナミックなアメリカ最北端のルート。国立公園の中を走る唯一のアムトラック列車。
シアトルおよびポートランドからシカゴまで2泊の旅。

12/26　Empire Builder (Amtrak)泊

朝起きると、シアトル発の編成と連結していたので、朝御飯は食堂車へ。車窓を眺めながらの食事は、列車ならではの贅沢。昨今、日本のほとんどの列車に食堂車が連結されていないのは残念。一日、雄大な景色を見て過ごす。ただし、一日に2回程度、給水などの目的で 20 分程度の休憩有り。夜にはラウンジカーで映画を見る。

12/27　Chicago,　Best Western Grant Park Inn 泊

シカゴ着。歩いてミシガン通りまで行き、タクシーを拾う。夕方、Water Tower Placeで買い物をした後、レストラン/バーで食事。生牡蠣が美味しかった。

12/28　Chicago,　Best Western Grant Park Inn 泊

午前中はNavy Pierの子供博物館、午後はシカゴ美術館へ。子供博物館には、さわれるものが沢山あるので子供は大喜び。一方、子供達にとって美術館は退屈らしく、ムンクの叫びまでは到達できず。唯一、ゴッホの自画像には興味を持つ。この間、交通手段としてバス、映画「逃亡者」にも出てきた高架鉄道、乗ってはいけないとされている地下鉄を利用。夕方、Downtown Chicago というレストランに入る。偶然に入った店であるが、高架鉄道をテーマにしたレストランであり、天井に電車が走っていた。ごきげん。

12/29　　City of New Orleans (Amtrak)泊

Metra という近郊通勤電車で産業科学博物館へ行く。本物の U ボート、アポロ8号の司令船、1cm 毎に切断された人体、胎児の成長過程の展示がある。外は雪でも中は熱気むんむん。子供たちも大喜び。思わず時間を忘れる。夕方、ホテルから荷物を撤収し、アムトラックステーションへ。乗車時間までファーストクラス用待合室で休憩。今回の列車は一泊のため、ちょっと節約してエコノミー寝台を利用。親子4人には狭すぎる。乗車が夜9時のため夕食は無いものの、ファーストクラス客には食堂車でワインとニューオリンズ料理であるガンボが振る舞われる。ウェイター、ウェイトレス共々とても陽気。

City of New Orleans

Chicago, Illinois　　Depart; 9:00 pm CT
New Orleans, Louisian　Arrive; 4:45 pm CT, Next day
Travel Time; 19 hr 45 min

ニューオリンズで生まれたジャズはミシシッピ川を遡り、たどり着いたところがシカゴ。
丁度、同じルートを走るのがこの列車。

12/30　New Orleans,　Double Tree Hotel 泊

ニューオリンズ着。ホテルに行くと確認の電話を入れたにもかかわらず予約されていないと言う。文句を言ったところ部屋を用意してくれる。値段も交渉次第のようで、「安く言ったもの勝ち」の感有り。夕方、Riverwalk でショッピングの後、ミシシッピー川の畔のレストランで食事。一年前、国際会議でニューオリンズに来た際、ザリガニを食べた店。残念ながら、季節はずれのためザリガニを扱っていなかった。

12/31　　New Orleans,　Double Tree Hotel 泊

ストリートカーの一日乗車券を買い、市内観光と決め込む。午前中は **緑色のストリートカー**でアップタウンへ。この緑色のストリートカーは「欲望という名の電車」で有名（な電車とほぼ同型）。午後はフレンチクオーターと呼ばれるダウンタウンを見学。St. Louis Cathedral の前のジャズは絶品。特に10歳前の黒人の女の子の歌声は本当にすばらしかった。ジャズ博物館に行った後、Bourbon Street へ。有名なシュガーボウル（カレッジフットボールの決戦）の前夜のため、オハイオ州立大とフロリダ州立大の（私設？）応援団が奇声をあげている。夕食にカエルの足を注文し、妻にあきれられる。夜中、日付が変わると花火が打ち上げられた。

1998

1/1　New Orleans,　Double Tree Hotel 泊

午前中は Aquarium of the America。午後は、ミシシッピー川を舟で遡り Audubon Zoological Gardens へ。ストリートカーでダウンタウンへ戻るとシュガーボウルは終了しており、選手がホテルへ帰還するのと遭遇。 Bourbon Street のレストランでシュガーボウルの VTR を見ながら食事。結果は分かっているもののみんな興奮気味。ここでも奇声をあげている人有り。アリゲーターを注文。一昨年食べた唐揚げの方が美味しかった。

1/2　New Orleans,　Double Tree Hotel 泊

午前中は Swamp ツアーに参加。Swamp とはこの辺特有の湿地帯のこと。冬眠のためアリゲーターにはお目にかかれなかった。代わりに沢山の野鳥を観察。午後はフレンチクオーターを散策。

1/3　New Orleans,　Double Tree Hotel 泊

午前中は Louisiana Children's Museum へ。米国には子供向けの博物館が沢山あり、そのどれもが自由に体験できるものである。例えば、スーパーやカフェのロールプレイングやテレビスタジオなど。日本の博物館との差を感じる。午後はトム・ソーヤ気分いっぱいの外輪船 Notchez 号に乗る。現在の船の操縦は如何に容易か！！夕食は昨夜と同様 Riverwalk で。

1/4　Sunset Limited (Amtrak)泊

無料のフェリーでミシシッピー川の対岸へ。船中のおばさんが対岸の治安の悪さを指摘。マディグラ博物館へ。マディグラはニューオリンズのお祭り。要は、ねぶたや祇園山傘の米国版。作成中の今年のものも見学。ニューオリンズ最後の食事は川縁のカフェで。もう思い残すところ、なし!?
タクシーで駅まで行き、再び車中の人となる。

Sunset Limited

New Orleans, Louisiana　Depart; 2:05 pm CT
Los Angeles, California　Arrive; 7:10 am PT, 2 days later
Travel Time; 1 day 19 hr 5 min

マイアミとロサンゼルスとを結ぶ、現在走行している唯一の大陸横断列車。
4934km を3泊4日約 69 時間で駆け抜ける。

1/5　Sunset Limited (Amtrak)泊

遅れを取り戻さないまま進行。途中、この旅初めて昼間に時差調整をする。ちょうど、食事の予約を入れて有ったので、予約時間はどうなるのかとアテンダントに聞いた。列車は新しいタイムゾーンで運行し、食堂はこの食事が終わるまで前のタイムゾーンのままであるとのこと。納得！！昼過ぎ、ワインがふるまわれる。子供は、おつまみのチーズに夢中。夕食時、食堂車のウエイターが余りにも横柄なので頭に来る。家内は怒って中座してしまうし、、、うれしく・・・・ない！！

(1/6)　Coast Starlight (Amtrak)乗車、アルバニーの我が家泊

2時間以上遅れたままなので、このままではロサンゼルスでは Coast Starlight に接続できないことが判明。途中駅にバスがチャーターされており、これに乗り換え、ロスをショートカットし、サンタバーバラへと向かう。おかげで列車内で朝食を食べ損ねる。結局、時間の関係でサンタバーバラの一つ前の駅まで行く。時計を西海岸時間に合わせていなかった私はその駅で CoastStarlight に乗り遅れたものと勘違いし、少々慌てる。定刻より遅れてやってきたCoast Starlightに乗車。バス乗り継ぎ客には食堂車で昼食が振る舞われる。このケアが米国らしいと思う。車内ではアテンダントがマジックショーや風船細工を。行き時のおばさんよりも面白い。10時近くにやっと Emeryville に到着。タクシーを拾い我が家へ。長い旅はやっと終わったのでした。

Coast Starlight

Los Angeles, California　Depart; 9:30 am PT
Emeryville, California　Arrive; 9:10 pm PT, Same day
Travel Time; 11 hr 40 min

前述の列車。サンタバーバラ付近では海岸線をずっと走り、最高の景色。

＊　＊　＊

全日程　　14泊15日　内　ホテル泊8泊、車内泊6泊

列車の発着時間は 1997 年 12 月～1998 年 1 月当時のものです。
現在の時間を知りたいのでしたら、http://www.amtrak.com/を訪れて下さい。

＊　＊　＊

アメリカでは、この他、保存鉄道も充実しています。日本にも、大井川鉄道を筆頭にいくつかの保存鉄道、保存車両が有ります。しかし、アメリカはそれに比べて比較にならないほど充実しているのです。逆に言うと、一部の通勤列車を除き、アメリカでの列車の地位は非日常的なものになってしまっていると言えます。週末になると、自分の本職を忘れ、その様な保存鉄道や私設博物館にマニアが集まって来ます。趣味で本物の鉄道を走らせるのですから、スケールが大きいのには驚かされます。よく、鉄道旅行をするのは子供が好きだからか、それとも私のせいかと聞かれました。いつも、両方とも、と答えていました。しかし、家内も、旅行計画を立てる内にすっかり鉄道旅行の虜になっていました。最初の内は「おうちに帰ろう」を連発していた娘も、自分専用の鉄道模型を持つ始末です。結局、今では一家全体が鉄道好きになってしまいました。

この拙文を読んで、一人でも鉄道の旅の支持者が増えれば光栄です。鉄道の利用者が増えればサービスも向上するでしょう。全てのあさま号が上田に停まるのが私の夢です。最後に、COE に謝辞を書きますので、これを今年の業績にしてくれないかな～あ。

付記

この文章を書き終えたちょうどその直後、アメリカでの最大の友、Portege 君が過労のため倒れました。彼とはアメリカでの思い出を共有していました。が、もう永久に彼の記憶は戻らないようです。今は無き彼の記憶の為に、この文章を捧げます。（セーブして有って良かった。）

参考文献、推薦文献

32nd Annual, Steam Passenger Service Directory:
A Guide to Tourist Railroads and Railroad Museums
Kalmbach Books
保存鉄道や鉄道関連の博物館のガイドブック。
この本のおかげで普通なら日本人が訪れないような町に何度となく訪れました。

地球の歩き方　旅のマニュアル 259
アメリカ　鉄道とバスの旅／ダイヤモンド社
アムトラックについて詳しく書かれています。これを読んだ後、アムトラックに乗れば色々な発見もできます。

Rail Ventures: The Comprehensive guide to Train Travel in North America
Rail Ventures Publishing
時間経過に伴う車窓を説明。アムトラック旅行に携帯したい一冊です。

Amtraking
Mauris L. Emeka 著
Apollo Publishing Company
鉄道旅行を楽しむためのガイドと副題が付けられています。
車内設備や車内での過ごし方まで書かれています。

ラウンジカー（展望車）

祝 連載一年

連載④　　上田周辺観光ガイド　～番外編～

村上　泰

◎おみやげ

独断と偏見にもとづくおみやげ紹介です。

○巨峰

上田の隣の東部町は巨峰生産日本一なのです。

○観光会館

ハニーウェル近く上田城入口にある観光会館の売店は、上田の物産ショーウィンドーのような場所です。売店の中にあるジェラードは珍しいものが多くお勧めです。

○飯島商店【みすず飴・ジャム】

みすず飴は根強い人気があります。みすず飴はどこでも売っているのですが、駅に近いところにある飯島商店は雰囲気がいいので、わざわざ足を運ぶ価値があります。飯島商店では人気のジャムを売っています。

○うさぎや【くるみそば】

うさぎやの【くるみそば】は、上田らしいお菓子として人気があります。最近、おみやげとしては切らなければ分けられないお菓子は敬遠されがちですが、根強いファンがいます。

○スノーレッツグッズ

長野オリンピックのキャラクターのスノーレッツは長野県ではたいへん人気があります。

○スーパーツルヤ【オリジナル商品】

信州大学繊維学部の北側裏口から出てすぐにあるのが、スーパーツルヤです。ツルヤは東信地方が誇るスーパーで、ぜひ店内を見学されることをお勧めします。とくにオリジナル商品が充実していて、リンゴジュース、野沢菜などおみやげ品としても充分通用する品物があります。野沢菜をおみやげにされる場合には、持ち帰らずクール宅急便で送ることをお勧めします。4℃以上で放置すると野沢菜の味は確実に落ちてしまいます。

○信州限定商品

信州限定商品は、北海道限定品とならんで多く見られます。なかでもグリコの【ジャイアントプリッツ】はお勧めです。りんごとチーズケーキの2種類があり、どちらも人気があります。これに対して巨峰味のジャイアントポッキーはあまり人気がありません。他にはわさび味[*1]の【おっとっと】が好評です。

[*1] 現在はわさび味に代わり、野沢菜漬味が販売されています。

♪♪♪分館通信♪♪♪

告知板

ここでは図書館からの最新の情報をお知らせしています。
次号 Library 発行までのお知らせは、Library 号外として構内の掲示板や繊維学部分館ホームページ（http://shinlif1.shinshu-u.ca.jp）でご案内していますので、そちらをご覧ください。

⇒ *夏季休業中の特別貸出について*

夏季休業に伴い、下記の通り貸出期間を延長します。

貸出開始日	大　学　院　生	平成 10 年 7 月 13 日（月）	10 冊以内
	学　部　4　年　生		8 冊以内
	学部２・３年生	平成 10 年 7 月 26 日（金）	3 冊以内
	研究生・聴講生		
返却期限日	**平成 10 年 10 月1日（木）**		

※ 返却期限日は厳守してください。

⇒ *夜間開館の休止について*

８月７日（金）～９月 30 日（水）の夏季休業中は、開館時間が短縮されます。

休業中	８：３０a.m.～５：００p.m.

業務内容は通常通り行います。
２階閲覧室には冷房が入っていますので、どうぞご利用ください。

⇒ *学術雑誌の製本について*

７月３日（金）より１９９７年学術雑誌の製本作業（第一回）に入ります。製本雑誌リストや搬出日・納入予定日は、図書館入口の掲示板や繊維学部分館ホームページでお知らせしていますので、そちらをご覧ください。
作業期間中、ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力下さいますようお願いいたします。

⇒ *受入図書リストの掲載について*

4 月より受入図書は、図書館入口の掲示板でご案内しています。前月に受入れた図書をご紹介していますので、ご覧ください。

又、OPAC で新規登録図書を検索できるようになりました。こちらも合わせてご利用ください。

分館日誌

（4 月～6 月）

5/21	第1回図書委員会	
6/11	第2回図書委員会	
6/16	全学図書館関係係長会議（松本）	出席者－峯村
6/18	附属図書館運営委員会	出席者－中沢分館長・小西運営委員
6/30	第3回図書委員会	

編集後記

すっかり夏めいた陽気が続いていますが、夏といえば夏休み、休みといえば旅に出たくなりませんか？今回は、円安が加速度的に進んだ昨年、高値の花となりつつある海外へ（もちろん研修のためですが…）発たれた 2 名の先生方に執筆をお願いしました。

金勝廉介先生には海外の大学図書館の様子を、渡辺義見先生には 2 週間に及ぶ列車旅行記を寄せていただきました。残念なことに、印刷の都合でせっかくの写真が見づらくなってしまいましたが、インターネット版ではクリアな画像でご覧になれますので、是非のぞいてみて下さい。

連載を初めて早一年。村上先生の「上田周辺観光ガイド」は番外編として先生オススメのおみやげリストを掲載しました。夏休みに帰省する際の参考にされてはいかがでしょうか。

次号は 10 月の発行を予定しています。利用者の皆さんの声も Library に掲載したいと思いますので、ご意見・書評など何でもお寄せ下さい。係員に直接、または E-mail での寄稿もお待ちしています。

E-mail アドレスは、jfg0100@giptc.shinshu-u.ac.jp です。